

北軽井沢にミュージック・ホールという半野外コンサートホールがあります。群馬交響楽団もここで演奏しますが、夏にはクラリネット奏者ナイデック氏がセミナーを主宰し、盛んにコンサートをしています。今年は残念ながら、日程が合わずに聞くことが出来なかったのですが、思わぬ幸運が舞い込みました。

軽井沢町の大賀ホールでの金子三勇士のピアノコンサートの招待券を頂きました。これはある企業がお得意様に謝恩コンサートとして提供したものでした。私は彼の名前は知っていたものの、聴いた事は無く、楽しみに出かけました。



彼は日本人を父に、ハンガリー人を母に持つ 27 歳のピアニストです。プログラムは第一部がドビュッシーの「月の光」、ショパンの「英雄ポロネーズ」、「革命」、ベートーヴェンの「月光」等、お馴染みの名曲でした。彼は「月光」は作者によってテンポも曲想も指定されていないから、彼自身の解釈で演奏しますと言って、若々しい熱情溢れる演奏をされました。それは私にとっては、ロックンロールともいふべき、燃え滾る、爆発している魂の叫びに聞こえました。本当に楽しい演奏でした。

後半のプログラムは、彼に流れる血と同じ、ハンガリーの、作曲家リストの作品でした。金子三勇士氏は曲目について、ユーモアと愛情を持って解説してくれました。これは素人の私にとっては有難いコメントでした。彼がどんなに音楽を愛しているか、聴衆にどんなにそれを伝えたいか、という温かい気持ちが伝わってきて、私は彼のファンになってしまいました。このコンサートには橘バレエ学校のバレリーナが 3 曲にコラボして踊り、音楽を具象化したのも楽しい企画でした。



軽井沢での最後の日に、千住博美術館に立ち寄りました。美術館の敷地に足を踏み入れた途端に、植栽と建物がバランスよく並んで続き、安堵感のような、穏やかな気持ちに包まれます。白い建物は潇洒な感じですが、中はバリアフリーで、緩やかなスロープで回ることが出来るコンパクトなものです。

大きな窓を取り入れ、日の光と庭の緑が建物の中に入り込み、光と緑と建物が一体となっているようです。作品は日本画で、「滝」を主とする風景画です。最初に千住博氏の絵筆、顔料(岩絵具や、砥の粉)、様々なスプレーの展示を見て、日本画の表現方法を知ることができました。「滝」の絵は沢山あり、照明を受けて変化するものが一室に特別に展示されていました。見ているうちに、天と地をつなぎ、循環している水の在りように思いがいきましました。それは、輪廻する仏教の死生観にも似て、人生は無常でありながら、変わる事の無い大きな何かに静かに支えられ、悠然としていいのだ！と感じさせられるものでした。生々しい人間の思いを超越しているような世界が描かれています。静かに憩える美術館でした。